

## 環境創造局が所管する外郭団体の協約マネジメントサイクルに基づく 評価結果等について

本市では、各外郭団体が一定期間における主要な経営目標を本市との「協約」として掲げ、経営の向上を促進する「協約マネジメントサイクル」の取組を進めています。

各団体において取組を進めている「協約」については、目標に対する進捗状況の確認及び経営を取り巻く環境の変化への対応について毎年度振り返りを実施するとともに、横浜市外郭団体等経営向上委員会（以下「委員会」といいます。）による評価を実施し、マネジメントサイクルの効果の向上及び団体経営の健全化を図っています。

これらについて、当局所管の外郭団体である「公益財団法人 横浜市緑の協会」に関し、協約の取組状況の確認及び振り返りを実施しましたので御報告します。

### 1 評価結果等（公益財団法人 横浜市緑の協会）

#### (1) 協約の取組状況

##### ア 令和3年度に定めた団体経営の方向性等

##### (ア) 協約の期間

令和3年度～令和5年度

##### (イ) 団体経営の方向性

「引き続き経営の向上に取り組む団体」

##### イ 令和4年度の取組状況等（抜粋）

##### (ア) 公益的使命の達成に向けた取組（SDGs 達成に向けた取組）

協約期間の 主要目標	①SDGs の視点による事業の取組推進及び Y-SDGs(横浜市 SDGs 認証制度)の認証取得 ②低圧電力等における再エネ 100%電力の導入 令和3年度 50%、令和4年度 60%、令和5年度 70%		
目標達成に向けて 取り組んだ 内容及び成果	①令和3年度に取得した上位=Superior (スーパー) から、更に最上位=Supreme (スプリム) の認証を取得し、協会の対外的なプレゼンスが向上した。また、全職員向けの研修を実施し、協会全体の意識向上に繋げることができた。 ②新たに再エネ 100%電力 6 件の契約切替を実施し、使用割合 60%を達成した。		
実績	前年度 (令和3年度)	令和4年度	当該年度の 進捗状況等
	①「横浜市緑の協会 SDGs 達成に向けた取組」の策定、Y-SDGs の認証取得 (上位=Superior (スーパー)) ②低圧電力等における再エネ 100%電力の使用割合 53%	①Y-SDGs の認証取得 (最上位=Supreme (スプリム)) ②低圧電力等における再エネ 100%電力の使用割合 60%	順調

今後の課題及び対応	<p>①協会として SDGs の達成に貢献するためには、職員が SDGs の視点をもって事業に取り組むことが必要である。そのため、SDGs の理念や国内外情勢及び当協会の取組を理解し、各職員の役割を認識するための研修等を実施する。</p> <p>②低圧電力等における再エネ 100%電力の使用割合向上のため、新規契約受付が可能な小売電気事業者との契約切替を進める。</p>
-----------	--

(イ) 公益的使命の達成に向けた取組（緑化推進事業）

協約期間の主要目標	<p>①ガーデンネックレス横浜など花や緑に関わる大規模イベントの開催により、緑化への関心が高まるとともに、文化・観光の振興、賑わいづくりなどにも寄与している。 里山ガーデンフェスタ入場者数 毎年 24 万人</p> <p>②国際園芸博覧会に向けた新たな人材育成および活用スキームの構築。 よこはま花と緑の推進リーダー（以下、「推進リーダー」という。）の中から、花や緑の専門知識を習得したガーデンネックレス横浜ガイドボランティアを育成し、里山ガーデンフェスタ会場で活用 ガイドボランティア育成 毎年 10 名以上</p> <p>③国際園芸博覧会の機運醸成を目的とした市民協働花壇の設置・育成。 協会が管理する指定管理公園への市民協働花壇の設置・育成 累計 3 か所以上</p>		
目標達成に向けて取り組んだ内容及び成果	<p>①横浜市と連携し、「ガーデンネックレス横浜 2022」及び「里山ガーデンフェスタ（春・秋）」を実施した。里山ガーデンフェスタは 249,085 人が訪れ、入場者目標を達成。賑わいの創出、緑化への関心を高めることができた。</p> <p>②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア育成講座を修了した 17 名が新たに里山ガーデンフェスタで活動を開始し、令和 3 年度に不足していた目標人数を補完することができた。</p> <p>③市民協働花壇を根岸森林公園、野島公園、こども植物園に設置し、管理を開始した。市民協働による花壇の維持管理により、よこはま緑の推進団体、推進リーダー及び市民ボランティアに加え、公園利用者に対しても国際園芸博覧会の機運醸成を図ることができた。</p>		
実績	前年度 (令和 3 年度)	令和 4 年度	当該年度の進捗状況等
	<p>①ガーデンネックレス横浜（通年）、里山ガーデンフェスタ（春 1 回、来場 171,128 人）※里山ガーデンフェスタ（秋）は中止</p> <p>②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア 8 名</p> <p>③協会の指定管理公園で市民協働花壇を 3 か所設置・管理</p>	<p>①ガーデンネックレス横浜（通年）、里山ガーデンフェスタ（春来場者 164,233 人、秋来場者 84,852 人）</p> <p>②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア 17 名</p> <p>③協会の指定管理公園 6 か所で設置・管理（R3 年度 3 公園、R4 年度 3 公園）</p>	順調

<p>今後の課題及び対応</p>	<p>①花や緑に関する普及啓発を継続的に実施していくため、横浜市の施策であるガーデンネックレス横浜と連携して事業を推進する。</p> <p>②幅広い世代層のボランティアを育成する必要があるため、育成対象をよこはま緑の推進団体に拡大する。</p> <p>③継続的な人材育成・技術支援のため、維持管理に必要な知識及び技術の習得を目的とした研修会を実施し、市民活動をサポートする。</p>
------------------	---

(ウ) 公益的使命の達成に向けた取組（動物園事業）

<p>協約期間の 主要目標</p>	<p>①種の保存（守り続ける） 世界と手を取り合って野生動物を計画的に守っていく役割 多様な行動を引き出す飼育環境改善（5件/年）（各園）</p> <p>②環境教育（知り伝える） 動物や生息環境のことを多くの人々へ伝え、行動につなげる役割 出張動物園スクール等(リモート含む)の実施回数(40回/年)(3園合計)</p> <p>③レクリエーション（出会い感じる） 動物に魅せられ、ともに生きることの大切さを感じられる公園としての役割 季節ごとに特色あるイベントや企画展の実施（4件/年）（各園）</p> <p>④調査研究（理解し学ぶ） 動物に対する科学的な知識を深め、その情報を市民と共有する役割 市民向け研究発表等の実施（15回/年）（3園合計）</p>
<p>目標達成に向けて 取り組んだ 内容及び成果</p>	<p>①飼育動物の生活環境を豊かにするエンリッチメントを実施するとともに、レッサーパンダ、グレビーシマウマ、コアラ等、多くの希少動物の繁殖に取り組んだ。また、金沢動物園ではアマミトゲネズミの生息域外保全の取組等が認められ、環境省から横浜市初となる認定希少種保全動物園の認定を受けた。そのほか、新たな取組として、渡り鳥であるミゾゴイの野生復帰事業を開始した。</p> <p>②小学校へのお出張やオンラインでの各種教育プログラムのほか、園内でのガイドやワークショップ等を実施した。よこはま動物園では、「世界ライオンの日」にアフリカで活動する保護団体の方による講演等を行い、ライオン等の野生動物の密猟などの実情を伝えた。講演後のアンケートでは、半数以上（67％）の参加者から考え方が変わったとの回答を得ることができた。</p> <p>③コロナ禍でも安全・安心に楽しめるように感染防止対策を徹底しつつ、動物園の魅力を伝えるイベントや企画展を実施した結果、利用者調査アンケートの「全体的な満足度」で3園平均97.2％（とても満足、やや満足の合計）を得ることができた。</p> <p>④大学等との共同研究を実施し、研究発表やホームページ等での周知や総合学術誌へ論文を投稿した。その結果、国内初の成功となったツシマヤマネコの人工授精の学術論文が、動物に関する総合学術誌「Animals」に2年連続で掲載され、全世界と成果を共有することができた。</p>

	前年度 (令和3年度)	令和4年度	当該年度の 進捗状況等
実績	①よこはま動物園：5件 野毛山動物園：5件 金沢動物園：12件 ②3園合計：67回 ③各園4件 ④3園合計：28回	①よこはま動物園：7件 野毛山動物園：5件 金沢動物園：6件 ②3園合計：103回 ③各園4件 ④3園合計：32回	順調
今後の課題 及び対応	新しい生活様式に臨機応変に対応しながら動物園の管理運営に取り組んでいく必要があるため、アフターコロナを見据えて、引き続き創意工夫によるサービス提供により動物園の利用促進に努める。		

(エ) 財務に関する取組

協約期間の 主要目標	①公益への還元として、指定管理の協定上、指定管理者として実施すべき項目以外にも、施設・設備・備品の修繕・更新・調達等を実施し、市の財政負担軽減及び市民サービスの向上を図る。 公園・動物園事業における公益への還元（1,000万円/年） ②①を実施した上での資金収支計算書における収支均衡を維持（毎年）		
目標達成に 向けて 取り組んだ 内容及び成果	①協定で定められた額（※）以上の施設・設備及び備品の修繕等を行い、市の財政負担及び市民サービスの向上に寄与することができた。 ※横浜市との協定では、公園は50万円以上、動物園は100万円以上の修繕等を市が行うと取り決められている。 ②コロナによる施設利用制限が解除されたため、感染拡大防止対策を徹底しながらイベント等を再開した結果、各施設の来場者数が回復し、駐車場や販売収入が増えて黒字収入となった。		
実績	前年度 (令和3年度)	令和4年度	当該年度の 進捗状況等
	①111,275,929円 ②当期資金収支差額 88,299,866円	①63,138,824円 ②当期資金収支差額 14,251,272円	順調
今後の課題 及び対応	施設の老朽箇所が増えており、施設の改善や備品の買換え等が必要となっている。収支均衡を維持するために、効果的な集客・イベント等の対策を講じる一方、本部経費等の削減にも努める。		

(オ) 人事・組織に関する取組

協約期間の 主要目標	①人材育成ビジョンの改定 ②改定した人材育成ビジョンの考え方に基づく研修等の実施
目標達成に 向けて 取り組んだ 内容及び成果	令和3年度に実施したヒアリングや調査内容を踏まえ、協会職員の多様な職種・雇用形態に対応した人材育成ビジョンへ改定するとともに、勤務評価に関わる項目の整理を実施した。また、改定後の人材育成ビジョンに基づいた研修計画を策定した。

	前年度 (令和3年度)	令和4年度	当該年度の 進捗状況等
実績	①人材育成ビジョンの考え方の整理および骨子案作成 ②令和4年度以降実施予定	①人材育成ビジョンの改定 ②令和5年度研修計画の策定	順調
今後の課題 及び対応	今回改定した人材育成ビジョンやその考え方に基づいた研修計画に沿って、関係部署へのヒアリングやアンケート結果を参考に、より効果的な研修を実施する。今後、新たな職種や雇用形態を設ける際には、人材育成ビジョンを見直す必要がある。		

## (2) 所管局・団体による振り返り

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部、目標数値に届かなかった項目もありましたが、4年度においては、全ての取組において目標数値を達成することができました。引き続き、目標達成に向け、市と団体で連携して経営向上に努めてまいります。

## 2 添付資料

### 自己評価シート（令和4年度実績）

#### 【参考1】委員会について

設置根拠	横浜市外郭団体等経営向上委員会条例（平成26年9月25日施行）
設置目的	外郭団体等のより適正な経営の確保を図るとともに、外郭団体等に関して適切な関与を行うため
委員 (任期2年) ※50音順	河合 千尋（ベイサイド・パートナーズ会計事務所 公認会計士） 黒木 淳（横浜市立大学 国際商学部教授） 寺本 明輝（(株)浜銀総合研究所 顧問・特任コンサルタント）【委員長】 治田 友香（関内イノベーションイニシアティブ(株)代表取締役社長） 福田 敦（関東学院大学 経営学部 教授）
設置	平成26年10月21日
所掌事務	1 外郭団体等のより適正な経営を確保するための仕組み及び外郭団体等に対する市の関与の在り方に関すること 2 外郭団体等の経営に関する方針等及びその実施状況の評価に関すること 3 外郭団体等の設立、解散、合併等に関すること 4 その他外郭団体等に関し市長が必要と認める事項

#### 【参考2】委員会での審議方法について

令和3年度までは全団体について審議を行っていましたが、令和4年度からは、より深い議論ができるよう、審議団体数を絞り、全ての団体が概ね3年毎に審議を受けるように変更しました。

なお、委員会審議がない年も、所管局・団体による進捗状況の自己評価を行うとともに、委員会への報告を実施しています。

公益財団法人横浜市緑の協会については、今年度は「報告団体」です。

## 自己評価シート（令和4年度実績）

団体名	公益財団法人横浜市緑の協会
所管課	環境創造局総務課
協約期間	令和3年度～令和5年度
団体経営の方向性	引き続き経営の向上に取り組む団体

## 1 協約の取組状況等

## (1) 公益的使命の達成に向けた取組

## ① SDGs 達成に向けた取組

ア 公益的使命	緑化推進・公園・動物園及び経営の各事業を多様な主体と連携して取り組むことで、良好な都市環境の形成など身近な市民生活に関わるものから、生物多様性の保全など国際的な課題につながるものまで多岐にわたる当協会の役割を果たし、持続可能な社会の実現に貢献する。			
イ 公益的使命の達成に向けた協約期間の主要目標	①SDGsの視点による事業の取組推進及びY-SDGs（横浜市SDGs認証制度）の認証取得 ②低圧電力等における再エネ100%電力の導入 令和3年度50%、令和4年度60%、令和5年度70%			
ウ 目標達成に向けて取り組んだ内容	①Y-SDGs最上位「Supreme（スプリーム）」認証申請 ②低圧電力等における再エネ100%電力への切替の促進	エ 取組による成果	①令和3年度に取得した上位＝Superior（スーパーリア）から、更に最上位＝Supreme（スプリーム）認証を受けたことで協会の対外的なプレゼンスが向上した。また、全職員向けの研修を実施し、協会全体の意識向上に繋がった。 ②新たに再エネ100%電力6件の契約切替を実施した（累計42件）。このことにより、使用割合60%を達成した。	
オ 実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度	最終年度（令和5年度）
数値等	①「横浜市緑の協会SDGs達成に向けた取組」の素案作成 ②低圧電力等における再エネ100%電力の使用割合18%	①「横浜市緑の協会SDGs達成に向けた取組」の策定、Y-SDGsの認証取得（上位＝Superior（スーパーリア）） ②低圧電力等における再エネ100%電力の使用割合53%	①Y-SDGsの認証取得（最上位＝Supreme（スプリーム）） ②低圧電力等における再エネ100%電力の使用割合60%	—
当該年度の進捗状況	順調（①Y-SDGsの認証「最上位＝Supreme（スプリーム）」を取得した。②令和4年度目標を達成した。）			
カ 今後の課題	①協会としてSDGsの達成に貢献するために、職員がSDGsの視点をもって事業に取り組むことが必要である。 ②再エネ100%電力への切替が未実施の低圧電力等の契約切替を検討していく（15件）。	キ 課題への対応	①SDGsの取組を進めていくのに際し、SDGsの理念や国内外情勢及び当協会の取組を理解し、各職員の役割を認識するため研修等を実施する。 ②令和5年度は低圧電力等において新規契約受付が可能な小売電気事業者との契約切替を進める。	

## ② 緑化推進事業

ア 公益的使命	基金の運用益等を活用した緑化推進事業を実施し、市民の都市緑化への関心を高め、市民による緑化活動を支援するなど、市の都市緑化施策の一部を担うことにより都市の住環境や魅力の向上に貢献する。			
イ 公益的使命の達成に向けた協約期間の主要目標	<p>①ガーデンネックレス横浜など花や緑に関わる大規模イベントの開催により、緑化への関心が高まるとともに、文化・観光の振興、賑わいづくりなどにも寄与している。  <b>里山ガーデンフェスタ入場者数 毎年 24 万人</b></p> <p>②国際園芸博覧会に向けた新たな人材育成および活用スキームの構築。よこはま花と緑の推進リーダー（以下、「推進リーダー」という。）の中から、花や緑の専門知識を習得したガーデンネックレス横浜ガイドボランティアを育成し、里山ガーデンフェスタ会場で活用  <b>ガイドボランティア育成 毎年 10 名以上</b></p> <p>③国際園芸博覧会の機運醸成を目的とした市民協働花壇の設置・育成  <b>協会が管理する指定管理公園への市民協働花壇の設置・育成 累計 3 か所以上</b></p>			
ウ 目標達成に向けて取り組んだ内容	<p>①ガーデンネックレス横浜 2022（通年）、里山ガーデンフェスタ（春・秋）を実施</p> <p>②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア育成講座を実施。講座を修了した 17 名が里山ガーデンフェスタで活動</p> <p>③市民協働花壇を根岸森林公園、野島公園、こども植物園に設置、管理開始。昨年度に設置した金沢自然公園、俣野公園、三ツ沢公園の市民協働花壇の管理を継続</p>	エ 取組による成果	<p>①横浜市と連携しガーデンネックレス横浜 2022 を実施した。里山ガーデンフェスタは 249,085 人が訪れ、入場者目標を達成。賑わいの創出、緑化への関心を高めることができた。</p> <p>②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア育成講座を修了した 17 名が新たに里山ガーデンフェスタで活動を開始し、令和 3 年度に不足していた目標人数を補完することができた。</p> <p>③ 3 公園で花壇を新規設置、令和 3 年度に設置した 3 公園の花壇と合わせて 6 公園で、市民協働による花壇の維持管理を行った。この取組により、よこはま緑の推進団体、推進リーダー及び市民ボランティアに加え、公園利用者に対して国際園芸博覧会の機運醸成を図ることができた。</p>	
オ 実績	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	最終年度（令和 5 年度）
数値等	<p>①ガーデンネックレス横浜（通年）、里山ガーデンフェスタ（秋 1 回、来場者 93,700 人）※里山ガーデンフェスタ（春）は中止</p> <p>②③（新規取組のため、省略）</p>	<p>①ガーデンネックレス横浜（通年）、里山ガーデンフェスタ（春 1 回、来場者 171,128 人）※里山ガーデンフェスタ（秋）は中止</p> <p>②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア 8 名</p> <p>③協会の指定管理公園 3 か所で設置・管理</p>	<p>①ガーデンネックレス横浜（通年）、里山ガーデンフェスタ（春来場者 164,233 人、秋来場者 84,852 人）</p> <p>②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア（R 3 年度 8 名、R 4 年度 17 名）</p> <p>③協会の指定管理公園 6 か所で設置・管理（R 3 年度 3 公園、R 4 年度 3 公園）</p>	-
当該年度の進捗状況	順調（①里山ガーデンフェスタ来場者数目標（24 万人/年）を達成した。②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア育成目標（10 名/年）を達成した。③市民協働花壇は、目標（累計 3 か所以上設置・管理）を達成した。）			
カ 今後の課題	<p>①花や緑に関する普及啓発の継続的な実施</p> <p>②幅広い世代層のボランティア育成</p> <p>③継続的な人材育成、技術支援</p>	キ 課題への対応	<p>①横浜市の施策であるガーデンネックレス横浜と連携し、事業を推進する。</p> <p>②ボランティアの育成対象をよこはま緑の推進団体に拡大する。</p> <p>③維持管理に必要な知識、技術の習得を目的とした研修会の実施により、市民の継続的な活動をサポートする。</p>	

### ③ 動物園事業

ア 公益的使命	動物園の役割である「種の保存」「環境教育」「レクリエーション」「調査研究」に関する事業を多様な主体と連携・実施し、その成果を広く発信することを通して、動物園の持つ役割を来園者等に伝えることにより、動物の生息環境を含めた生物多様性保全に貢献していく。			
イ 公益的使命の達成に向けた協約期間の主要目標	<p>①種の保存（守り続ける） 世界と手を取り合って野生動物を計画的に守っていく役割 <b>多様な行動を引き出す飼育環境改善（5件/年）（各園）</b></p> <p>②環境教育（知り伝える） 動物や生息環境のことを多くの人々へ伝え、行動につなげる役割 <b>出張動物園スクール等（リモート含む）の実施回数（40回/年）（3園合計）</b></p> <p>③レクリエーション（出会いを感じる） 動物に魅せられ、ともに生きることの大切さを感じられる公園としての役割 <b>季節ごとに特色あるイベントや企画展の実施（4件/年）（各園）</b></p> <p>④調査研究（理解し学ぶ） 動物に対する科学的な知識を深め、その情報を市民と共有する役割 <b>市民向け研究発表等の実施（15回/年）（3園合計）</b></p>			
ウ 目標達成に向けて取り組んだ内容	<p>①動物園における動物福祉に配慮し、科学的評価にも取り組むエンリッチメント（飼育動物の生活環境を豊かにする取組）を実施するとともに、希少動物の繁殖にも取り組んだ。</p> <p>②小学校へのお出張またはオンラインで各種教育プログラムを実施するとともに、園内でのガイドやワークショップ等を実施した。</p> <p>③コロナ禍でも安全・安心に楽しんでいただけるよう感染防止対策を徹底し、動物園の魅力を伝えるイベントや企画展を実施した。</p> <p>④動物に対する科学的な知識を共有するため、大学等との共同研究を実施し、その成果は動物園での研究発表やホームページ等で広く周知した。また、動物に関する総合学術誌に論文を投稿した。</p>	エ 取組による成果	<p>①よこはま動物園でレッサーパンダが18年振り、野毛山動物園でグレビーシマウマ、金沢動物園でコアラ等、多くの希少動物が繁殖した。 金沢動物園におけるアマミトゲネズミの生息域外保全の取組等が認められ、環境省から横浜市初となる認定希少種保全動物園の認定を受けた。また、渡り鳥であるミゾゴイの野生復帰事業を新たに開始した。</p> <p>②よこはま動物園で、「世界ライオンの日」にアフリカで活動する保護団体の方による講演等を行い、ライオン等の野生動物の密猟などの実情を伝えた。講演後のアンケートでは、半数以上（67%）の参加者から考え方が変わったとの回答を得ることができた。</p> <p>③イベント等を実施することで、利用者調査アンケートの「全体的な満足度」では3園平均97.2%（とても満足、やや満足の合計）を得ることができた。</p> <p>④ツシマヤマネコの健康管理に関する学術論文が、動物に関する総合学術誌である「Animals」に2年連続で掲載され、全世界と成果を共有することができた。</p>	
オ 実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度	最終年度（令和5年度）
数値等	<p>①（未集計のため省略）</p> <p>②3園合計：40回</p> <p>③よこはま動物園：2件 野毛山動物園：3件 金沢動物園：2件</p> <p>④3園合計：12回</p>	<p>①よこはま動物園：5件 野毛山動物園：5件 金沢動物園：12件</p> <p>②3園合計：67回 〔よこはま動物園：21件〕 〔野毛山動物園：13件〕 〔金沢動物園：33件〕</p> <p>③各園4件</p> <p>④3園合計：28回 〔よこはま動物園：12回〕 〔野毛山動物園：6回〕 〔金沢動物園：10回〕</p>	<p>①よこはま動物園：7件 野毛山動物園：5件 金沢動物園：6件</p> <p>②3園合計：103回 〔よこはま動物園：32件〕 〔野毛山動物園：24件〕 〔金沢動物園：47件〕</p> <p>③各園4件</p> <p>④3園合計：32回 〔よこはま動物園：15回〕 〔野毛山動物園：7回〕 〔金沢動物園：10回〕</p>	-
当該年度の進捗状況	順調（コロナ禍ではあったが、感染防止対策を徹底して実施し、新しい生活様式や各種ガイドラインに対応したプログラムを取り入れることで各目標件数を達成した。動物園の持つ役割を十分に果たし、動物の生息環境を含めた生物多様性保全に貢献することができた。）			
力 今後の課題	新しい生活様式等に臨機応変に対応しつつ、動物園の管理運営に取り組んでいく必要がある。	キ 課題への対応	アフターコロナを見据えて創意工夫によるサービス提供等により動物園の利用促進に努める。	

## (2) 財務に関する取組

ア 財務上の課題	<p>①新型コロナウイルス感染症への対応による収入の減 ②公益への還元を図りつつ、安定的な経営を継続するために、収入の増、支出の減に注力し、収支改善を図る必要がある。</p>				
イ 協約期間の主要目標	<p>①公益への還元として、指定管理の協定上、指定管理者として実施すべき項目以外にも、施設・設備・備品等の修繕・更新・調達等を実施し、市の財政負担軽減及び市民サービスの向上を図る。 <b>公園・動物園事業における公益への還元 (1,000 万円/年)</b> ②①を実施したうえでの<b>資金収支計算書における収支均衡を維持 (毎年)</b></p>				
ウ 目標達成に向けて取り組んだ内容	<p>①協定で定められた額(※)以上の施設・設備及び備品の修繕等を行った。 ※横浜市との協定では、公園は50万円以上、動物園は100万円以上の修繕等を市が行うと取り決められている。</p> <p>②公園、動物園ともにコロナによる施設利用制限が解除されたため、消毒資材の設置やソーシャルディスタンスの徹底等の感染拡大防止対策を徹底しつつ、コロナ前の施設運営を行った。</p> <p>【公園事業】 根岸森林公園及び金沢八景権現山公園の指定管理の開始、海の公園における潮干狩りの再開、山手西洋館のイベント再開及びエリスマン邸喫茶室の営業再開等</p> <p>【動物園事業】 「夜の動物園」の再開、学校遠足、修学旅行生等の団体利用客の受け入れ</p>	エ 取組による成果	<p>①公益への還元について次のとおり達成することができた。</p> <p>【公園事業】 三ツ沢公園平沼像前トイレ小便器更新、海の公園管理センター事務所入口シャッター改修、三ツ沢公園庭球場No7・8コート観覧席改修、海の公園南口休憩所照明改修、三ツ沢公園慰霊塔前広場水飲み場漏水修繕等</p> <p>【動物園事業】 よこはま動物園モウコノウマ展示場整備、よこはま動物園ウンビョウ展示場擬木設置、金沢動物園生き物館前塗装修繕、金沢動物園授乳ブース購入、金沢自然公園ののほな館バーゴラ及び手すり塗裝修繕等</p> <p>②コロナによる施設利用制限が解除されたことにより、施設の感染対策を徹底しながらイベント等を再開した結果、各施設の来場者数が回復し、駐車場や販売収入が増えて黒字収入となった。</p>		
オ 実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度	最終年度 (令和5年度)	
数値等	<p>①9,980,795 円 ②当期資金収支差額 ▲2,395,017 円</p>	<p>①111,275,929 円 ②当期資金収支差額 88,299,866 円</p>	<p>①63,138,824 円 ②当期資金収支差額 14,251,272 円</p>	—	
当該年度の進捗状況	<p>順調 (令和4年度は、コロナ禍以前の運営をすることができ、当期収支差額においても黒字を維持することができた。)</p>				
カ 今後の課題	<p>①施設の老朽箇所が増えているため、施設の改善、備品の買換え等が必要になる。 ②①の達成をしつつ、収支均衡を維持するためにも、収益の増、経費の削減に注力する。</p>		キ 課題への対応	<p>①老朽箇所は、協定書に則り、横浜市と協議して適切に対処する。 ②今後、更にレジャー施設への利用者増が予想できるため、効果的な集客・イベント等の対策を講じる一方、本部経費等の削減にも努める。</p>	

### (3) 人事・組織に関する取組

ア 人事・組織に関する課題	協会設立から40年近くが経過し、管理施設・実施事業の多様化、少子高齢化、雇用に対する価値観の変化、SDGsの推進など、様々な環境の変化に対応するため、多種多様な職種・雇用形態の職員を雇用するようになってきている。現行の人材育成ビジョンはすべての職種・雇用形態に対応していないため、見直しを行う必要がある。			
イ 協約期間の主要目標	①人材育成ビジョンの改定 ②改定した人材育成ビジョンの考え方に基づく研修等の実施			
ウ 目標達成に向けて取り組んだ内容	①令和3年度に実施したヒアリングや調査内容を踏まえ、人材育成ビジョンの見直しに取り組んだ。 ②改定した人材育成ビジョンに基づいた研修計画の検討を行った。	エ 取組による成果	①協会職員の多様な職種・雇用形態に対応した人材育成ビジョンを改定した。また、勤務評価に関わる項目を整理した。 ②令和5年度研修計画を策定した。	
オ 実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度	最終年度(令和5年度)
数値等	・CS・接遇研修など：年8回	①人材育成ビジョンの考え方の整理および骨子案作成 ②-	①人材育成ビジョンの改定 ②令和5年度研修計画の策定	-
当該年度の進捗状況	順調 (①人材育成ビジョンの改定が完了した。 ②人材育成ビジョンの考え方に基づいた研修計画を策定した。)			
カ 今後の課題	①新たな職種・雇用形態を設ける際には、人材育成ビジョンを見直す必要がある。 ②新たな研修計画では新規研修を2件(中堅職員研修、ベテラン職員研修)実施するため、効果的な内容となるよう準備する必要がある。	キ 課題への対応	①新たな職種・雇用形態を設ける際には、人材育成ビジョンの改定も同時に行う。 ②新規研修2件(中堅職員研修、ベテラン職員研修)について、関連部署へのヒアリングや、既存の研修アンケートを参考に準備・実施する。	

## 2 団体を取り巻く環境等

### (1) 今後想定される環境変化等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症は5類感染症に位置づけられたが、感染症対策などの公衆衛生は引き続き継続する必要がある。</li> <li>・ウクライナ情勢や地震、風水害などの自然災害も影響し、光熱費を含めた急速な物価高騰などが常態化しつつある。</li> <li>・横浜市では「横浜市中期計画 2022~2025」において、共に目指す都市像「明日をひらく都市」を掲げ、SDGsの達成や地域コミュニティの強化、脱炭素社会の実現などを踏まえた戦略・政策に取り組んでおり、SDGsや脱炭素に向けた動きが加速するものと想定される。また、「ガーデンシティ横浜」の推進や「GREEN×EXPO 2027」に向けた取組、3つの動物園の特徴を生かした、憩い・癒しの場の創出など、公益財団法人として、その役割に期待が高まっている。</li> </ul>
---

### (2) 上記(1)により生ずる団体経営に関する課題及び対応

<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の管理運営にあたっては、必要に応じ適時適切な衛生対策等を実施していく。</li> <li>・更なる物価上昇や自然災害等、不測の事態が生じた際には、各契約等の定めに基づき、市と協会の両者で協議の上、適切に対応する。</li> <li>・再生可能エネルギーの導入やSDGsへの貢献、DXの推進などに対し積極的に取組み、横浜市の施策に貢献する。また、「ガーデンシティ横浜」のリーディングプロジェクトである「ガーデンネックレス横浜」における「里山ガーデンフェスタ」や「よこはま花と緑のスプリングフェア」を横浜市と協力して開催するとともに、市民協働による「GREEN×EXPO 2027」応援花壇の設置やイベントでの広報を積極的に実施し「GREEN×EXPO 2027」の機運醸成に取り組んでいく。</li> <li>・都市ブランド力の向上に向けた、動物園の充実を図るため、動物園の4つの役割「種の保存」「環境教育」「レクリエーション」「調査研究」をしっかりと果たしていくとともに、野毛山動物園のリニューアルを市と協会とで連携して取り組んでいくことが必要である。</li> </ul>
---